

## 請 願 ・ 陳 情 文 書 表

( 陳 情 )

陳情第3号

介護保険料の引き上げをしないよう求める陳情(不採択)

( 陳 情 の 趣 旨 )

「安心して老後を送りたい」、これはすべての市民の願いである。しかしながら、現在の介護保険制度は創設時の政府の主張であった「家族で介護する負担を社会全体で支えていく」との理念から大きくかけ離れたものとなっているのが現状である。

不透明な認定制度やさまざまなサービスの利用制限による「介護の取り上げ」が利用者に生活困窮をもたらし、食費・居住費の自己負担化など重い利用料負担がサービスの利用取りやめや減らさざるを得ない事態を生んでいる。

また、低所得者層を中心に、少ない年金からも保険料が天引きされながら、利用料の自己負担(1割)ができずにサービスの利用ができない「負担あって介護なし」といった深刻な現状が広がっていることも問題である。

ことし4月から始まる新しい介護認定方式では、厚生労働省のモデルケースでも二、三割がより軽度の介護度へと判定され、一層サービスが抑制されることが予想される。

現在、市議会で介護保険料の見直し案として示されている月額717円の引き上げは、厚生労働省の推計として出された全国平均の月額180円アップをはるかに上回るものである。引き上げ後の全国平均は月額約4270円であり、青森市の現在の基準月額4256円は既に同程度の水準にある。これまで過去2回の介護保険料見直しでは、保険料の基準月額が約1070円アップ、率にして約33.4%と大幅な引き上げがなされてきた。

物価の高騰や年金支給額の減少、老年者控除の廃止や公的年金等控除の縮小などの税制改悪による租税負担の増加など、高齢者を困む状況は年々厳しくなっており、負担は限界となっている。これ以上の負担増を高齢者に押しつけないためにも、下記事項について陳情する。

( 陳 情 事 項 )

今回の介護保険料見直しで、保険料の引き上げをしないこと。

( 陳 情 事 項 )

平成21年3月2日

陳 情 者 青森市長島三丁目17-6  
青森生活と健康を守る会  
会長 齋 藤 恵 子